1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4099300024
法人名	有限会社　祝
事業所名	グループホーム　桜木荘
所在地	福岡県田川郡添田町大字庄２５４９番地の１
自己評価作成日	平成24年11月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　アーバン・マトリックス　評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6　北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年11月16日	評価結果確定日	平成25年1月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域の方々とのふれあいを大事にし、地元の小学校や行政区とネットワークを結んでいる。また入居者様が毎日いきいきと生活していただけるように職員と一緒に買い物に行ったり四季を通じて色々な所に外出している。施設の裏には桜木荘農園と名付けた畑があり、入居者様と職員で共に作業して収穫した野菜を食卓に提供している。米も地元農家からの新米を使用している。入居者様やご家族にも食事がとても美味しいと好評をいただいている。訪問医療、訪問歯科、訪問理容のサービスも行っている。運営推進会議も2ヶ月に1回定期的に開催しご家族からの意見や要望・行政区長・行政職員・社会福祉協議会からの情報提供など、意見交換を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

地域のニーズに応えるべく、今年度、新規開設されたホームである。高台に広大な敷地を有し、来年度は、町内の盆踊り大会を開催できるよう働きかけを行っている。近隣住民でもある管理者のネットワークも活用し、地域との馴染みの関係性が築かれており、今後も福祉拠点としての活動展開が楽しみな事業所である。訪問当日は終始賑やかな声が響き、喜怒哀楽を表出できる居場所であること、また自然体での関わりが印象的である。入居者とともに畑で野菜を育て、収穫の喜びや味わいを共有し、また、地域の米を購入し、冷凍食品を用いないことや、季節に応じたおやつ作り等、「食」の充実に取り組んでいる。今後も、認知症ケアの背景となる情報収集や気づきを共有しながら、理念である、自分らしさや、生きがいのある暮らしの実現に向けた取り組みが楽しみな事業所である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：25,26,27）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：20,40）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：40）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：38,39）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：32,33）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：30）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,21）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,22）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	談話室、事務所に理念を掲げ毎朝管理者と職員は唱和し共有して実践につなげている。	地域密着型サービスとしての独自の理念が作成され、職員は常に携行している。また、職員意見により、「情熱を持って　前向きに」が加えられた事業所の5項目のモットーとともに、毎朝、唱和されており、文言だけとならないよう、意識した支援を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員も地域から雇い管理者も地元なので行政区とのつながりも深く地域のイベント、交流会などを行っている。	法人代表者の意向として、地域への貢献に力を入れている。また、管理者の地元でもあり、PTA会長や行政区の役員を務めた経緯もあるため、開設して間もないが、地域とのつながりは深い。行事には近隣の小学生や家族を招いたり、広い敷地を活用して、次年度の町内盆踊り大会開催も計画されている。昔からの地域の通り名である「桜木町」がホーム名の由来である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	時あるごとに行政区長とも話しあって施設の入居者認知症の方々に対する理解をしていただけるようにしている。また、地域の方々からの施設への受け入れや相談、要望にも快く応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回行われ行政職員、区長家族等が参加され施設での状況報告、事故報告、行事報告等が行われ家族からの意見、要望を伺いサービス向上に努めている	定期開催されている運営推進会議には、全家族への開催案内を行い、区長、高齢者福祉課及び介護保険課担当者の出席に加え、職員が交替で参加している。事業所より状況報告を行い、関係者との情報共有の機会として、また、出された意見をサービス向上に活かしていくよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者の方々とも連絡を取り合い協力関係を築いている。また広域連合や地域包括センターの方々にも当、施設の相談や指導を仰いでいる。	運営推進会議には、高齢者福祉課、及び介護保険課担当者の出席を得ている。また、ケースワーカーとの連携も含め、情報共有や助言を頂きながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての理解は月に1度の職員会議や毎朝のミーティングで徹底している。徘徊のある認知症入居者には職員が同行して見守りを行っている。	日中、玄関の施錠は行っていない。定例会議や毎朝のミーティングにて、身体拘束をしないケアについて意識を高め、職員の共有認識を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員会議やミーティングなどで話し合い、常に虐待がない安心で入居者に優しい介護に取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところ自立の為の支援事業を活用されている入居者様はおられない。成年後見制度については社外研修などで学んだ情報をご家族や関係者の質問に答えるようにしている。	成年後見制度や日常生活自立支援事業については、行政の主催する研修に参加し、内部での伝達を図っている。今後は、家族や地域に向けた積極的な情報提供にも期待します。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前にも十分な説明を行い締結時にも再確認をしている。解約時また改定等の際は入居者様やご家族の不安や疑問点を尋ね十分な説明を行い理解・納得をしていただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に入居者様やご家族に意見や要望を聞くようにしている。それら吸い上げた意見や要望を施設に反映させるように努めている。	全家族へ、運営推進会議の案内を行っている。毎月、各担当職員による「生活状況報告書」を作成し、家族へ日常の様子を伝え、情報共有を図っている。出された意見や要望については、迅速な検討と対応に努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の業務の中で気付いた事や職員会議などで、出された意見や要望・提案を施設の行事や運営に取り入れている。	毎月、職員全員の参加を基本とする会議を開催し、情報共有を図り、意見や要望の収集に努めている。風通しの良い職場環境づくりを目指し、事業運営を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自の努力や実績、勤務状況を把握し運営者に報告している。楽しくいきいきと働けるように個人の能力を認め励ましと支援に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢などの理由で採用対象から排除することはない。本人のやる気と介護職に関心のある人を採用している。また個々の職員がいきいきとやりがいを持って勤務できるように支援している。	職員の採用にあたっては、人柄や介護への思いを重視し、年齢や性別による排除は行っていない。20代から60代までの職員が勤務し、それぞれの持ち味や役割を果たせるよう配慮している。絵を描くことが得意な管理者や職員により、室内の飾り付けや通信、レクリエーション予定表の作成が行われたり、料理の得意な職員により、こだわりの食事が提供されたりと、特技や持ち味を発揮する場面がある。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員会議や申し送りなどで入居者様の人権について話し合っている。特に身体拘束・虐待・プライバシーの保護などは重視している。	管理者は、独自の資料を作成し、様々な視点から職員教育を行っている。また、メンタルヘルスに関する外部研修にも参加し、職員のストレスケアにも留意している。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	チームケアを大切にして一人ひとりのケアの実際、力量を把握し法人内外の研修を受けるようにしている。社内勉強会をして職員の質の向上に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地元のグループホームに見学に行ったり施設の職員に相談したりしている。グループホーム協議会等にも参加して交流を深めたい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	電話での問い合わせ時、見学時の時から本人が困っている事、不安な事、要望などを聞いている。本人が安心して生活できるようにご家族とも信頼関係を築くように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様と同じくご家族様も困っている事、不安な事、要望などを常に聞きながら安心できるようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、本人とご家族の要望を聞き一番して欲しいサービスから支援し、順に他のサービスも含めた支援を行い本人とご家族が一番満足できるように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	朝、昼、夕と入居者様と職員は同じ食事をし、共に洗濯物を干したり、炊事を手伝っていただいたり、家族の一員として泣いたり笑ったりして苦楽を共にしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様を支援していく上で、わからない事や、行き詰まりを感じた時にはご家族に相談して援助、協力をいただきながら共に支えていく関係を築いている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある人が面会に来られる機会も多く、本人様の大切な時間を大切にして支援している。またドライブなど外出した時に馴染みの場所にも行くように努めている。	自宅の様子を眺めに出かけたり、趣味活動が継続できるよう支援を行っている。家族や知人、かかりつけ医等、これまでの関係性を大切にしている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者様同士の関係を把握し一人ひとりが孤立しないように常に声掛けを行い談話室での行事やレクリエーションにできる限り参加していただけるように努力している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	まだ、そういった入居者様はおられないが、入院や契約が終了した時などはこれまでの関係性を大事にし、相談や支援に柔軟に対応していきたい。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	（12）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族に要望を聞き希望、意向に沿った支援に努めている。一人ひとりの思いや暮らし方を大切にし困難な入居者様は本人本位で対応している。	日常の中で見出された言葉や要望については、申し送りやカンファレンスにて共有している。個人記録については、特に夜間帯の記載が充実している。職員個々は、これまでの暮らしや生活習慣、趣味活動や嗜好について、ある程度把握している。	アセスメント情報としての記録は少なく、職員の気づきや新たな情報を共有していくためにも、様式の工夫や充実が期待されます。認知所ケアへの新たなアプローチへと結び付けていくことが期待されます。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から契約時にいただいた入居者様の生活歴や暮らし方、生活環境、これまで受けられたサービスなどを職員全員でこれらの情報の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日を通し入居者様一人ひとりの過ごし方、心身状態を全職員が把握して支援をしている。		
28	（13）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の希望や意見を反映させより良く暮らす為の課題とケアを全職員がモニタリングに意見やアイデアを出し合い現状に応じた介護計画を作成している。	本人、家族の参加する担当者会議を開催し、担当医や看護師、薬剤師の意見も反映しながら、介護計画を作成している。地域との関係性や趣味活動の継続等も盛り込まれ、個別性ある計画となっている。3ヶ月毎のモニタリングや月例会議、日々の申し送り等を通じて、現状の確認と見直しの必要性について検討している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個々の介護記録、申し送り記録、バイタル記録、その他の記録など、毎日記録し、全職員が共有できるようにしている。また、実践や介護計画の見直しにも活かしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が来園された時などに可能な限り管理者や職員は意見や要望を聞きその時のニーズに応えるようにしている。柔軟な支援を心掛けている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政区、役場、小学校などと協力関係を築きながら入居者様が安心して笑顔で楽しい暮らしができるように地域資源を活用して支援をしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望を大切にし、訪問医療のドクターが月に2度、訪問看護が2度診ていただいている。かかりつけ医とも関係を維持している。専門医療が必要な時はその都度対応している。	これまでのかかりつけ医の継続や、協力医、及び訪問看護事業所との連携を図りながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に日常の関わりの中で気づいた事、情報を伝えて意見交換を行い全職員が共有している。また相談もして入居者が適切な受診や看護を受けられるようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した時など安心して治療できるようにご家族や病院関係者などに連携を図りながら支援をしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、本人やご家族と話し合いをして施設として出来る事を説明して方針を共有し同意を得てその後のあり方を支援していきたい。	入居の際に、医療との連携についてやグループホームとしてのサービス体系について説明を行っている。今後想定される重度化や終末期のあり方については、本人、家族の意向や医療との連携を踏まえ、体制作りを積み重ねていく意向である。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生に備えて談話室や事務所に緊急連絡先を掲示している。施設は開所して日が浅いので応急手当や初期対応の訓練などはしていないが春・秋に消防署に来ていただいて定期的に訓練を行うように計画している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害などに備え施設自衛消防団を結成し各自、職員は役割分担を把握し、役割分担表を事務所に掲示している。日頃から地域の方々にもお願いをして協力を仰いでいる。	事業所に隣接して管理者の自宅があり、地域との根付いた関係性を活用し、区長への協力要請も行われている。開設して間もないこともあり、訪問調査時点では、消防署の指導による避難訓練は実施されていない。	消防署の指導を求めながら、昼夜を想定した避難訓練を実施し、地域の避難場所としての役割も含め、地域との協力体制をより実践的に築いていく意向である。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の性格やこだわりなどを把握し個人の尊厳を大切にしプライバシーには配慮して言葉使いにも気をつけている。	個別の時間の流れを尊重し、生活習慣や趣味活動の継続を支援できるよう取り組んでいる。また、言葉かけや対応が、誇りやプライバシーを損ねることの無い様、職員教育に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者を常に観察し本人の話も傾聴し納得されるように支援を行っている。また、本人の表情や動作でその思いも気づくように努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の理念・モットーである、自分らしい生活を送り笑顔で楽しく生きがいのある毎日を過ごす為に入居者第一で、本人のペースに合わせた支援を心掛けている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人やご家族の要望に合わせて支援をしている。また月１回、訪問理容の方に希望者には散髪・カットをしていただき、その人らしい整容ができるように支援をしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に料理本を見ながら食べたいものを探していただいたメニューを入れたり準備や片づけなどを一緒に行い施設の畑で採れた野菜を皆で収穫し食卓を楽しんでいる。	地域の米を用いたり、冷凍食品は使用しない等、食材にこだわっている。また、敷地内の畑で育てられた野菜の収穫を楽しみ、食卓を賑わせることもある。運営推進会議の中で食事会も開催されており、参加者の好評を得ている。当日の食事からも、日常の取り組みがうかがえる。季候の良いときには玄関先でお茶とケーキを楽しんだり、月見団子を皆で作ったり、外食の機会をもつ等、普段とは違う雰囲気を楽しむ機会もある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタルチェック表に個々人の毎食事量、水分量を記入し摂取量が少ない時は調理の工夫をしたり水分に甘みを入れたりして摂取していただくように支援をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者全員に起床時と、毎食後の歯磨きを励行し声掛けをし、一人ひとりに合わせて介助を行い義歯の洗浄・消毒の管理をしている。		
45	（19）	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄パターンを把握し今のところ全入居者がトイレでの排泄を行っているので現状を維持しながら本来の排泄に心掛けている。	現状としては自立されている方が多く、昼夜を通しておむつを使用している方はいない。羞恥心やプライドに配慮しながら、さりげない対応を心がけている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になる原因を常に考え繊維質な食べ物の摂取や水分量の確認、散歩など運動の声掛けをし排便が困難な時は腹部マッサージなど行い3日以降は担当医とも相談し便秘薬にて対応している。		
47	（20）	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は本人の希望、その日の体調に合わせ支援をしている。入浴拒否された時も無理強いはせず本人の希望に沿って支援をしている。	基本的な入浴スケジュールは設定しているが、毎日、入浴準備を行い、希望や状況、体調等にあわせた、柔軟な対応を心がけている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や体調、その時の状況に応じて安心して休んだり、夜間も安心して気持ちよく眠れるように四季を通じて冷暖房の空調調節にも気を配っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、バイタルチェック表にも必ず服薬確認を記入している。また変化のある時は委託医師に連絡・相談し観察を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意な事を普段の会話の中で見つけ出し楽しんで気分転換出来るように、また他の入居者とも共有出来る作業への参加の声掛けも行い生活に張り合いがもてるように支援をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に合わせて散歩をしたり、畑に行ったり地域の人たちとも会話を楽しまれている。また普段行けない所に行くように行事計画をたて見物や食事をし四季を通じていろいろな場所に出かけている。	毎月１回、外出行事を企画している。また、個別の希望を聴き取り、買い物や畑作業等を支援している。広大な敷地を有しており、玄関先での日光浴やラジオ体操等、気軽に外気浴を行うことが出来る。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に行き職員が立ち会いでお金を払っている。基本的には施設がお金の管理をしているが、本人の希望に合わせて使えるように支援をしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に合わせて電話できるように支援をしている。施設の電話をいつでも使用出来るように支援をしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の中が殺風景にならないように入居者みんなで楽しんで作った手作りのペーパーフラワーを飾ったり鑑賞用に魚を飼ったり行事の折の写真などを壁に貼っている。また入居者の部屋の入り口には好きな色の花を飾っている。	玄関ホールとリビングが一体的な造りとなっており、天井部分まで開口部がとられ、開放的な空間となっている。ソファーの配置も工夫され、食卓の椅子には、入居者お手製のカバーが付けられている。リビングの大きな窓からは、畑や周辺の木々の様子を眺めることが出来る。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室ではカラオケ、手作りのパズル、将棋、マッサージ機などで一人ひとりが思い思いの時間を過ごせるような居場所作りの工夫をしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人やご家族の意向に沿って元住んでいた家の、使用していた家具など自由に持ち運んでいる。気持ち良く過ごせるように支援をしている。	箪笥や仏壇、テレビ、冷蔵庫等が持ち込まれ、安心して、居心地良く過ごせるよう配慮されている。家族と連携しながら、自宅の再現を強く意識した居室もあり、それぞれの方にとっての居室づくりに配慮している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の入り口に大きな字で名前を書いて居室がわかるようにしてある。一人ひとりが自立した生活を送れるように安全に配慮している。		